



UNITED NATIONS
UNIVERSITY

2009年6月5日
MR/J21/09

メディア用原稿
非公式記録

国際連合大学 広報部
〒150-8925
東京都渋谷区神宮前 5-53-70

Tel.: +81-3-5467-1212
Fax: +81-3-3499-2828
E-mail: media@unu.edu
Website: <http://www.unu.edu/>

「気候変動適応に関する高等教育」シンポジウムの開催

内容： 気候変動適応に関する高等教育の役割
テーマ： 「気候変動適応に関する大学院教育プログラム開発のための地域ネットワーク構築を目指して」
日時： 2009年6月10日（水）～12日（金）
場所： 国連大学本部（東京） 3階 ウ・タント国際会議場
主催： 国際連合大学サステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）
東京大学サステナビリティ連携研究機構（IR3S）

- 気候変動にどのように適応していくかは、今日の国際開発における最重要課題の一つである。気候変動による悪影響、とくに影響を受けやすい地域への悪影響を克服するための適応戦略を、地域や地球規模レベルでの知識および専門技術に支えられつつ、局地レベルで開発・策定していかなければならない。現在、適応分野の知識については国によって隔たりが大きい。そのような知識や専門技術は主として国際レベルにとどまり、最も必要としている開発途上国の人々にまで浸透していない。この状況で、アジア太平洋地域の高等教育機関が果たすべき役割は重要である。つまり、大学院教育は、気候変動への適応に必要な人材や技術的能力の育成に必要不可欠であるとともに、現地社会と協力しながら、各国の開発計画に必要な研究を行う場でもある。
- UNU-ISPは2009年6月10～12日、東京大学 IR3S と共催で、気候変動適応分野において高等教育が果たすべき役割に関するシンポジウムを開催し、適応に関する大学院プログラム開発のための地域ネットワーク構築をはかる。日本、アジア、オセアニアの大学から専門家が参加する予定である。
- シンポジウム初日（6月10日）は一般公開イベントで、著名な4名の基調講演が行われる。講演のテーマは、オーストラリア国立大学に新設された気候変動研究所の副所長であるジャネット・リンゼイ教授による「気候変動の概念」、中国林業科学研究院林業生態環境保護研究所のディキアン・リー（Diqiang Li）教授による「気候変動の影響及び適応策のニーズ」、地球変動適応科学研究機関（ICAS）所長で茨城大学学長特別補佐の三村信男教授による「開発計画における適応策の主流化」、科学技術振興機構研究開発戦略センター（JST/CRDS）のセンター長である吉川弘之教授による「適応策のためのイノベーション」である。基調講演に続いてパネルディスカッションが行われる。
- 11日（木）と12日（金）には招待者限定のワークショップが開催され、コースカリキュラムの共同開発、大学間でのリソースの共有および共同研究について協議が行われる。
- 10日（水）は英日の同時通訳あり。11日（木）、12日（金）の招待者対象のワークショップは英語のみで行われる。参加できない方のためにウェブキャスト（<http://c3.unu.edu/unuvideo/?242>）でもライブにて閲覧可能（後日閲覧も可）。

取材をご希望される報道関係の方は、国連大学広報部の谷野（やの）までご連絡ください。

（電話：03-5467-1311、Eメール：media@unu.edu）

国連大学は、1975年に開設した日本に本部組織を持つ唯一の国連機関。世界各地に広がる研究所や研修センターのネットワークとして学術活動を展開しており、東京の国連大学本部はその調整役を務めている。また、本部にはサステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）が、横浜には高等研究所（UNU-IAS）が設置されている。

MEDIA ADVISORY